けんぱくイベント

<イベントについて>
＊講堂で行うライベントは、基本的に定員200名（先着順）です。＊ 要申込 の表記がないイベントは申込不要です。＊ 有料（材料費や保険料など）の表記がないイベントは無料です。＊ 要申込 のイベントは、原則として開催日一ヶ月前の開館日（休館の場合は翌開館日）9:30より電話もしくは受付カウンターで受け付けます。定員に達したら受付を終了します。イベントの日時や内容に変更が出た場合、その都度ホームページなどでお知らせします。＊「みんな」は、博物館の活動を応援してくださる皆さんと一緒に、協力してつくりあげる「みんなでつくるイベント」を指します。

企画展「ボーダーなき世界を―福島県立博物館とWell-being―」関連イベント

ワークショップ「妄想屋台　大プレゼン大会」
5/31（土）10:00～13:00　企画展示室　きむらとしろうじんじんさん（美術家/陶芸家）
※どんな妄想が飛び出るか？R6年度にじんじんさんと妄想屋台を考えはじめたみなさんの大プレゼン大会です。

トークイベント「ミュージアムとだれものWell-being」　定員30名
5/31（土）14:00～16:00　なんだべや
きむらとしろうじんじんさん（美術家/陶芸家）、櫛田拓哉さん（こどもアートディレクター/こどものにわ代表）、
さとうてつやさん（デザイナー/ヘルベチカデザイン代表）、伊藤達矢さん（東京藝術大学教授）
※企画展に参加する3人のアーティスト、デザイナーの活動からミュージアムとだれものWell-beingについて考えます。モデレーターは伊藤達矢さん。手話が付きます。

ワークショップ「じんじんさんと　おさんぽ会」 要申込
6/1（日）10:00～16:00　なんだべや・館外　きむらとしろうじんじんさん（美術家/陶芸家）
※会津若松の気になるところ、好きなところをじんじんさんとおさんぽしながら探してみませんか。途中まで参加、途中から参加もOKです。

ギャラリートーク 有料 企画展観覧料または年間パスポート
4/26（土）・6/21（土）13:30～14:30　企画展示室
小林めぐみ・塚本麻衣子・原恵理子（当館学芸員）、川延安直（当館専門員）

手話付きギャラリートーク 有料 企画展観覧料または年間パスポート
5/24（土）13:30～15:00　企画展示室　小林めぐみ・塚本麻衣子・原恵理子（当館学芸員）、川延安直（当館専門員）

キッズ・ファミリー向けイベント

会津短大生とあそぼう
4/27（日）・5/25（日）10:00～12:00　なんだべや　会津大学短期大学部あそびサークルの皆さん
※お兄さんと、お姉さんが絵本やおもちゃで遊んでくれるよ！

こどもミニミニはくぶつかん
5/3（土）、5/4（日）10:30～15:30　なんだべや　5/3当館学芸員、5/4会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科、あそびサークルの皆さん
※大人も子どもも楽しめる博物館ならではのワークショップなどをご用意しています。遊びながら福島県の歴史や文化にふれてみませんか？

ワークショップ 会津唐人和凧作りinこどもミニミニはくぶつかん
5/3（土）10:30～15:30　なんだべや　当館学芸員
※会津唐人凧（あいづとうじんだこ）のぬり絵で簡単な凧を作ります。

博物館でもよみきかせ
5/10（土）・6/14（土）10:30～11:30　なんだべや
※エプロンシアター、紙芝居、昔語り。いろいろな「おはなし」博物館のモノや人と出会います！ニコニコ、ドキドキ、ワクワクする時間をお楽しみください。

見たい!知りたい!楽しみたい!　多彩なイベント

みんな **雪国ものづくりマルシェ2025さくら**
4/12（土）11:00～19:00　当館前庭・エントランスホール・なんだべや
※会津のものづくりと食が集まります。見て触れて、おいしいマルシェ、桜と一緒に楽しみませんか？

共催事業 **博物館友の会講演会「金の話－古来より人々は、なぜ金に魅せられてきたのか？－」**
4/13（日）13:00～14:15　講堂　住吉 勝さん（田中貴金属工業株式会社 貴金属リテール部部長付）
※人類と金（きん）の歴史を紐解きながら、金の文化をご紹介します。

博物館講座 **総合展示室「自然と人間」見どころ解説会**
4/20（日）13:30～14:30　講堂　筑波匡介・山口拡・栗原祐斗（当館学芸員）
※展示替えを担当した災害・民俗・歴史の学芸員が見どころをお話します。

自然史講座 **初耳！ 耳の標本の世界－魚の耳石からクジラの耳の骨まで－**
5/5（月）13:30～14:15　講堂　土屋祐貴（当館学芸員）
※奥深き「耳の標本の世界」へご案内します。

美術講座 **美術放談1「幸せになるために」**
5/17（土）13:30～15:00　講堂　小林めぐみ・塚本麻衣子・原恵理子（当館学芸員）、川延安直（当館専門員）
※今年度もやります美術放談。幸せになるために。人々はどんな祈りや願いを美術に重ねてきたのでしょうか。様々な幸せの姿を探ります。

みんな **体験プログラム 七絃琴**
5/18（日）10:30～12:00　13:30～15:00　なんだべや　飛田立史さん（琴士）
※江戸時代、会津藩士も弾いていた「七絃琴」。どんな音色か聴いてみませんか？弾琴にも挑戦できます。ご自由にお立ち寄りください。

みんな **民謡を知る　民謡を唄う　－玄如節と各地の民謡－**
6/7（土）13:30～15:30　エントランスホール　玄如節顕彰会
※会津伝承の民謡・玄如節を含む各地の民謡の歌詞をみる！意味や云われを知る！聴く！唄う！民謡がもっと身近なものになるでしょう。

考古学講座 **テーマ展「荒屋敷遺跡を考える」解説会**　有料　常設展観覧料または年間パスポート
6/15（日）13:30～15:00　講堂・分野別展示室「考古」　佐藤 豪（当館学芸員）
※荒屋敷遺跡ってどんな遺跡？出土品からわかった縄文時代のものづくりとくらしについて解説します。

みんな **体験プログラム 茶道** 要申込 各回定員15名 有料 2,000円
6/22（日）①10:00～ ②13:00～ ③15:00～　各回1時間程度　なんだべや
宮崎宗伊（裏千家 会津茶楽会・宮崎茶道教室代表）
※お茶を飲む。だけじゃない！ちょっと遊んでみましょう！お茶当てに挑戦

4～6月のポイント展

＊ポイント展は、収蔵品を中心に、特別に公開する資料などを1点から紹介する小規模展です。

●浮世絵の世界―石井研堂コレクション―　4/1～5/9
※美しいだけではない、浮世絵の楽しさとは。

●新収蔵資料展―葉たばこ財団寄贈資料―　4/1～6/29
※このたび寄贈された葉たばこ財団の福島県関係のコレクションをえりすぐってご紹介。

●耳の標本展―魚の耳石からクジラの耳の骨まで―　4/26～6/29
※「耳小骨」、「魚の耳石」、「クジラの耳の骨」の3つのテーマから「耳の標本の世界」を探ります。

●遠くからやってきた弥生土器たち―条痕文と遠賀川―　6/7～9/21
※二つの土器から、弥生時代の人々の交流を紐解きます。

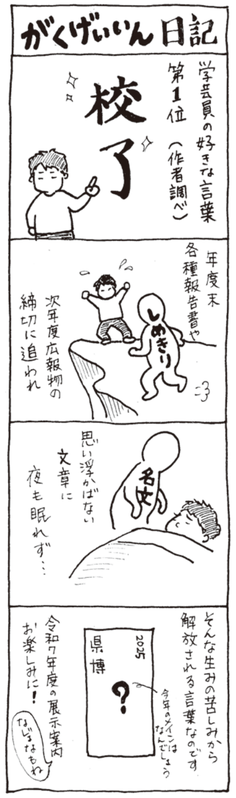
図書閲覧とコピーサービスのお知らせ

当館では、4月1日より図書コーナー設置の開架図書と一部の閉架図書（逐次刊行物、発掘調査報告書等）を対象に、週1日ではありますが、コピーサービスを開始します。料金は、モノクロが片面1枚につき10円、カラーが片面1枚につき30円です。開架図書については、毎週金曜日（金曜日が休館日のときは翌日土曜日）に受付で複写申込をしていただけます。
閉架図書については、当館webサイトの収蔵図書データベースからあらかじめ閲覧申込が必要です。受付で図書を受け取ったうえで、複写申込を行ってください。開架図書、閉架図書ともにコピーは職員が行います。
詳しくは当館webサイトをご覧ください。皆さまのご利用をお待ちしております。

［観覧料］
■常設展観覧料（観覧料を改定いたしました）
一般・大学生400円（20名以上の団体は320円）
こどもの日5/5は、すべての方の常設展観覧料が無料です。
■春の企画展
「ボーダーなき世界を―福島県立博物館とWell-being―」
一般・大学生1,000円（800円）、
（　）内は20名以上の団体料金。
三施設共通観覧券をご購入の方は、割引料金600円。
＊高校生以下は常設展・企画展ともに無料です。
■年間パスポート　2,400円　購入日から1年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。
■三施設共通観覧券（当館常設展・鶴ヶ城・茶室麟閣）
一般・大学生730円

■JR会津若松駅から約3km
・タクシーで約10分
・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分
（鶴ヶ城三の丸口下車すぐ）
・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分
（鶴ヶ城三の丸口下車すぐ）

Curator diary



車椅子使用者用駐車場
博物館西側「鶴ケ城三の丸口」バス停そば：2台
一般駐車場内博物館入り口側：3台

子育て応援駐車場
一般駐車場内博物館入り口側：3台
※妊娠中の方や未就学児のお子さんをお連れの方を対象とした駐車場です。
※ご不明の点はお問い合わせください。

福島県立博物館
Fukushima Museum

開館時間9:30～17:00（チケットの販売は16:30まで）
お問い合わせ TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986
〒965-0807　会津若松市城東町1-25
HP https://general-museum.fcs.ed.jp　E-mail　general-museum@fcs.ed.jp

なじょなVol.23　4～6月号　2025年3月31日発行　発行／福島県立博物館

福島県立博物館令和7年度春の企画展

ボーダーなき世界を

福島県立博物館とWell-being

会場：福島県立博物館 企画展示室
会期：令和7年4月26日（土）～6月29日（日）

みなさんは何かボーダーを感じたことはおありでしょうか。
性別に起因する差。
都市と地方の差。
年齢の違いにもとづく考え方の違い。
障がいの有無で異なる社会でのありかた。
震災の当事者性が語られるときの、被災地と非被災地。
私たちの社会には様々なボーダーが存在し、社会課題になっています。

本展は、7つの問いを起点にこれまで福島県立博物館が
アーティストと行ってきた活動をご紹介し、
ミュージアムとアートが介在することで生まれる
「だれものWell-being」から、
みなさんと目指すボーダーなき世界を考えます。
展示で、会期中開催するイベントでぜひみなさんもご一緒ください。
お待ちしています。

日比野克彦「Heart Mark Viewing 2011　東山温泉原瀧」

あなたのハートを誰に届けたいですか？

日比野克彦さんが、2011年にはじめたHeart Mark Viewing は、被災地に被災地外からの気持ちを届け、避難された方が避難を受け入れてくれた方を想い、被災者同士が思いやる、そんな機会を生む活動でした。熊本で、能登で。現在もハートは届けられています。

折元立身「おばあさんのランチ　二本松」
撮影：那知上智、映像制作：赤間政昭

誰とどこで何を食べたいですか？

折元立身さんのパフォーマンスおばあさんのランチは食を介在したコミュニケーションアート。二本松市の龍泉寺では二本松に避難している浪江のおばあさんたちと浪江の皆さんを受け入れた二本松のおばあさんたちが時を共有しました。

「10年間ふるさとなみえ博物館」

ミュージアムってなんでしょう？

二本松に避難、開校していた浪江町立浪江小学校、津島小学校の休校までの10年間を残し伝えるために小学校の先生たちと最後の小学生が選んだのは博物館をつくることでした。福島県博もお手伝いした10年間ふるさとなみえ博物館をご紹介します。

きむらとしろうじんじん「魅力の予感」撮影：福田啓道

あなたが気になる場所はどこですか？

きむらとしろうじんじんさんと令和6年度からおこなっている魅力の予感は、会津若松の不登校教室に通う小学生・中学生と大人たちが、会津若松の魅力的な場所をさがしながら、その場で実現したい妄想を膨らませるもの。多様な人が出会う場がうまれはじめています。

小池アミイゴ「食に学ぶ海幸山幸」撮影：岩波友紀

奥会津の食から、学んだことは？

小池アミイゴさんと郡山の子ども食堂のみなさんが、奥会津・柳津の伝統食のプロフェッショナルのお母さんたちに食文化を教えてもらっている食に学ぶ海幸山幸。
経験に裏打ちされたお母さんたちの素晴らしい暮らしの知恵。目からうろこばかりです。

さとうてつや「会津型で何つくる？」撮影：岩波友紀

文化のフリーコンテンツで何しましょうか？

デザイナーのさとうてつやさんに進むべき道を教えていただきながら、作業所のみなさんと喜多方の染型紙・会津型を使った製作に取り組んでいる会津型で何つくる？手仕事の意味を探り、障がいの有無を超えた創造を探ります。

櫛田拓哉「こどもと「土」とおおむかし」

村山修二郎「緑画ワークショップ」

ミュージアムで（と）何がしたいですか？

アーティストと取り組んできたミュージアムでの活動、ミュージアムとの活動。
その意義を考えます。

緑画ワークショップ（ 村山修二郎 ）
こどもと「土」とおおむかし（ 櫛田拓哉 ）
ヤベアベ学級との12月（ 佐野美里 大江よう 中津川浩章 ）
感じるリズム見つけるカラダ／とぶまなびーや（ 平山素子 ）

佐野美里、大江よう、中津川浩章「ヤベアベ学級との 12 月」
映像制作：森内康博

平山素子「感じるリズム見つけるカラダ」
映像制作：岩波友紀

テーマ展

けんぱくの宝 －しあわせのありかた－

について学芸員（美術分野）の塚本麻衣子さん、原恵理子さんに聞きました。

－この展示の内容を教えてください

同時期に開催する企画展「ボーダーなき世界を－福島県立博物館とWell-being－」では、近年博物館が取り組んできた活動を「Well-being」という言葉に照らして紹介しています。一方で、「Well-being」という言葉が使われるずっと昔から、「しあわせ」を表現する美術作品は作られ続けてきました。この展示では絵画や工芸品にみられる多様な「しあわせ」を紹介し、そのありかたを探っていきます。

－一押しの資料を紹介してください

（1）佐藤観山　宝船図　江戸時代（19世紀）　当館蔵

幸福を乗せてやってくる宝船は縁起物として親しまれ、宝物が山のように積まれた図や、七福神や八仙が乗る図などがあります。比較的シンプルに描かれた本図の船ですが、積まれているのはあらゆる願いを叶えるという如意宝珠。しかも三つ描かれていますので、もしかしたら三つまで願いを叶えてくれるのではないかと（担当学芸員は）期待しています。みなさんは何を願いますか？

（2）本郷嘉市　福助像　昭和時代　個人蔵・当館寄託

大きな頭に福々しい顔立ち、正座してちょこんと手をつく姿が愛らしい福助像。江戸で流行し、商家や茶屋に飾られました。一説には障害を持った方がモデルとも言われています。ちょっと変わった不思議な存在でありながらも、お出迎えキャラとして不動の地位を得て親しまれてきた福助像は、昨年12月から工事で休館していた博物館の再開館にもぴったりです。「いらっしゃいませ！」と展示室でお待ちしています。

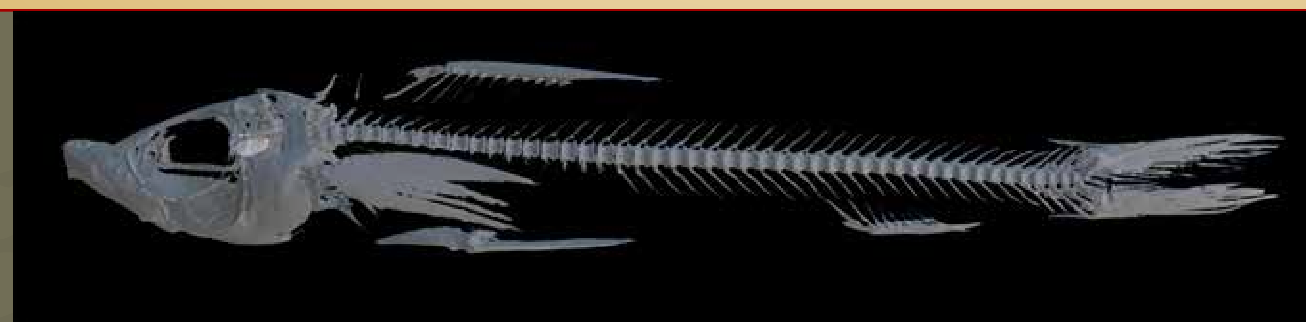
－最後に、展示に興味を持っていただいた皆さんにメッセージをお願いします

「しあわせ」という抽象的なテーマを、具体的な作品を通してどう紹介していくか、知恵をしぼりました。みなさんもご自身にとっての「しあわせ」とは何か考えてみませんか？

ポイント展＋

耳の標本展

－魚の耳石からクジラの耳の骨まで－



マルアオメエソ（メヒカリ）（現在）のCT画像　頭部に白く見えている「粒」が耳石

学芸員（自然分野）の土屋祐貴さんに聞きました

－どうしてこの展示を企画したのですか？

私の専門は、硬骨魚類（イワシやマグロなどの硬い骨を持つ魚）の頭の中にある「耳石」というパーツの化石です。
あまり耳慣れない用語なので、初めて聞いたという方も多いかもしれませんね。
「耳」にまつわる化石としては、魚の耳石よりも「クジラの耳の骨」の方が有名かもしれません（いや、どちらも知らないよという方、ごめんなさい）。
実は、魚の耳石とクジラの耳の骨は全く別の組織なのですが、「魚の耳石の研究をしています」と言うと、時々「クジラの耳の骨の魚版ですか？」という質問を受けます。皆さまに実物を見ながら「耳」と付く標本の違いを知っていただきたい、本企画はそのような思いから始まりました。

－この展示のキーワードを挙げるとしたら？

やはり「耳石」ですね。耳石は魚の聴覚や平衡感覚に関わっている石灰質の組織です。種類ごとに形が異なるので、その化石を調べることで昔の海にどのような魚が住んでいたかが分かります。

－展示の見どころを教えてください

展示は、「耳小骨」、「魚の耳石」、「クジラの耳の骨」の３つのテーマで構成されています。このように「耳」に関連した資料が一堂に会する機会はあまりないと思います。魅力あふれる耳の標本たちの世界にどっぷりと浸かってみてはいかがでしょうか？

ハナワクジラ」の耳の骨（レプリカ）
塙町産（当館蔵）

－一押しの資料は何でしょう？

皆さんは「メヒカリ」という魚をご存知でしょうか？メヒカリは「いわき市の魚」として知られる深海魚です。本展では、「メヒカリのなかま」の日本最古の化石記録となる耳石標本（実物）を展示します。この他、普段あまり目にすることができない「鳥の耳小骨」（実物）や塙町から産出した「ハナワクジラ」の耳の骨（レプリカ）などを展示します！

－展示にあたって苦労したことはありますか？

「耳の標本」は小さく、地味なものが多いので、どのように展示したら来館者の皆さまに興味を持っていただけるか思案しました。

－展示に興味を持っていただいた皆さんにメッセージをお願いします

本展は、春の企画展「ボーダーなき世界を－福島県立博物館とWell-being－」との連動企画になっています。地球上には多種多様な生命が存在していますが、実は音を聞きとることができる生き物はいくつかのグループに限られています。
生き物にとって、「音が聞こえる」は決して当たり前のことではないのです。それでも、彼らは様々な方法を用いて互いにコミュニケーションを図っています。多様な生き物の世界のように私たちの社会も多様であってほしい、本展にはそのような願いも込められています。

けんぱく中の人

今回は「ポイント展＋」とあわせて、令和6年度からけんぱくに仲間入りした学芸員の土屋祐貴さん（自然分野）が登場。世にも珍しい（?）耳石の研究者に迫ります。

－まずは自己紹介をお願いします。

学芸員の土屋です。長野県出身ですが、関東地方の大学、東海地方の大学院を経て、昨年度から福島県立博物館にやってきました。

－福島県で暮らし始めて、印象的なことは何でしょう？

今年の会津の雪の多さにはびっくりしました。長野県といっても、あまり雪が降らない地域の出身なので。

－土屋さんは耳石を研究していますが、これは化石研究者の間ではメジャーな研究テーマなんですか？

すごいマイナーです。耳石の研究をしていますというと、同じ化石の研究者の間でも「おぉ～」という感じです（笑）。魚の全体の化石をやっている方が扱うことはありますが、これを専門にする人は日本でも数人しかいないのではないかと。

－どうしてそんなテーマを選んだのでしょう？

僕もどうしてここに行き着いてしまったのかと思うんですが（笑）。もともとは海の環境の変化と、それに対する生物相の変化との関係を研究したいなと思っていたんです。そんな時に耳石のことを知り、これだったら海の環境の変化と魚類相の関係のようなものがわかるかなと思って研究を始めたんです。だから耳石のことをやりたくてというよりも、自分のやりたいテーマに合っている素材が耳石だったという感じなんです。

－化石の研究者というと、大きな恐竜の全身骨格を発掘して、みたいなイメージがありますが

確かにそういった研究をされている方もいらっしゃいます。個人的に大きい化石を研究している方はすごいなと思います。ただ、古生物学の世界では細かい化石を対象とした研究も盛んに行われています。

－学芸員を目指したきっかけは何でしょう？

子どもの頃から博物館に連れて行ってもらっていて、化石を観るのが好きだったんです。だから、何となく「こういう仕事につけたらいいな」とは思っていたのかな。正統派な感じです。

－実際に学芸員になったわけですが、最後に今後の抱負をお願いします

まだ目の前の仕事に取り組むだけで精一杯です。でも、「福島県の耳石の研究はおれに任せろ！」と言えるようになりたいですね。こんな研究をしている人が来ることは、この先もそうそう無いと思うので（笑）、お役に立てればいいなと。自分の専門を活かして福島県の化石研究を進めていきたいです。

総合展示室「自然と人間」展示更新しました！
学芸員（災害分野）の筑波匡介さんに聞きました

「震災遺産」が常設展に

博物館では、今まで企画展や特集展で「震災遺産を考える」をテーマに展示を行い、東北地方太平洋沖地震に起因する東日本大震災について、震災遺産を通して考え、話し合う場を設けてきました。4月の再開館に合わせて、常設展「自然と人間」を展示更新し震災遺産までの福島県の歴史を展示しました。

どうして展示更新をしたの？

2026年3月には震災から15年を迎えます。そのため小学生や中学生のほとんどは、東北地方太平洋沖地震が発生した時の記憶がありません。彼らにとってはもはや歴史上のできごとかもしれません。そんな子どもたち、また県外から修学旅行に訪れる子どもたちにも、地震によって落ちてきたもの、津波によって流されたもの、原子力発電所の事故により、避難せざるを得なかった福島県の状況を震災遺産から確認し、自分事として将来起こりえる災害について考えてもらいたいと考えています。

他にはどんな資料が展示されるの？

震災遺産の展示に合わせて、福島県の第二次世界大戦後の社会状況も少しではありますが、展示を加えました。高度経済成長の時代を経て、福島がどのように変わってきたのかを振り返っていきます。社会の仕組みが変わっていく様子や、経済や科学の発展が福島県に与えた影響などを知るきっかけになればと考えています。現代史の資料になりますので、まだまだ資料が少ない状況です。特に果物王国ふくしまを表す果樹栽培に関する資料については、これからも収集していきたいと考えています。
展示に合わせていくつかの「問い」も加えていますので、展示資料を通してみなさんもぜひ福島県の今までとこれからを考えてみませんか？

「果樹栽培や高度経済成長期に関する資料をお持ちでしたら、ぜひ博物館にお知らせください